

活力あふれる農村地域の発展事例から学ぶ
— 土地改良事業の実施地区から —

令和5年3月
農林水産省

【工夫のポイント】

- かんがい施設の整備によりマルドリ方式の導入が図られ、**安定したかん水制御により、収量増やブランド率向上**を実現。
- JAながさき西海を中心に、かんがい施設を利用した**スマート農業技術の実証プロジェクト**へ取り組む。
- 小規模な園内道や防風ネット整備、共同トイレの設置等、**営農条件の改善と向上**を実施。

【取組地域の概要】

○位置 させぼし
長崎県佐世保市



○主要作物
・みかん

- 主な支援施策
 - ・県営畑地帯総合整備事業(H27~)
 - ・果樹経営支援対策事業(実施中)
 - ・スマート農業技術の開発・実証プロジェクト(R2~R3)

基盤

かんがい施設の整備による 労力の軽減と品質・収量の安定化

かんがい施設の整備により、かん水に係る**労力の軽減**やきめ細かな肥培管理によるみかんの**品質・収量の安定化**が図られ、**経営が安定化**。



基盤整備

(H27年~)

【整備前】

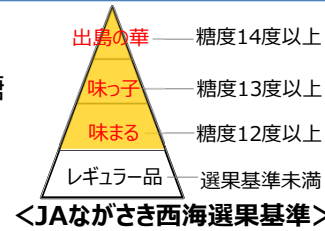
不安定な天水に依存し、**干ばつ時などに用水不足**が発生。近隣井戸からのくみ取りによる防除、夏場のマルチシートの張り剥しに**多大な労力**。



生産現場

マルドリ方式でブランド化を促進

- マルドリ方式※によりみかんの平均糖度が12.8度から13.2度に上昇。「味まる」の5%程度が「味っ子」になるなど**ブランド率が向上し、収量の安定化**に寄与。
- 果樹経営支援対策事業を活用し、**小規模な園内道や防風ネット等を整備**して営農条件を改善。
※マルドリ方式:周年マルチ点滴灌水同時施肥法



<JAながさき西海選果基準>

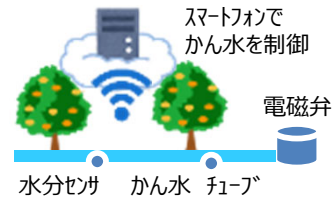


地域の取組

西海型マルドリ栽培の実証

- JAながさき西海が中心となり、基盤整備地区内で、**スマートフォンでかん水を制御**し、品質向上等に向け、**生産管理システムのスマート化**の実証に取り組む。

西海型マルドリ栽培の実証



担い手

担い手への農地集積の促進

- 地区面積の**85%以上**を担い手**18人**に集積。
- 共同トイレ等を整備し、みかん収穫時の雇用労働者等の**営農環境を改善**。

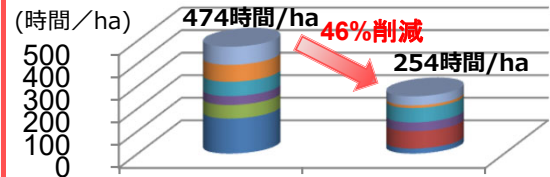


基盤整備と地域の取組が 一体となった収益力の向上

- かんがい施設整備により**反収が2,632kg/10a⇒3,027kg/10a**に増加し、**農業所得が18%増加**。
- **ブランド化の取組**により平成28年度に「**天皇杯**」を受賞。



- マルドリと自動かん水装置付液肥混入器導入により**作業時間を削減**。



- 防除用水運搬
- マルチシート張り剥がし
- 土壤肥料施肥(固形)
- 除草
- かん水
- マルチシート更新
- 葉面散布(SS)